４月の県内景況調査結果の概要

１．主要指標の前年同月比※ＤＩ値の動き

３年４月のＤＩ値は８指標中、主要３指標を含む６指標が上昇。「取引条件」「資金繰り」においては下落となった。

２．県内中小企業の景気の現状

自動車販売整備業では引き続き需要が好調であり、貨物運送業において巣ごもり需要により宅配関連が堅調であった様子。また一部業種からも持ち直しの動きがあるとの明るい報告も寄せられた。

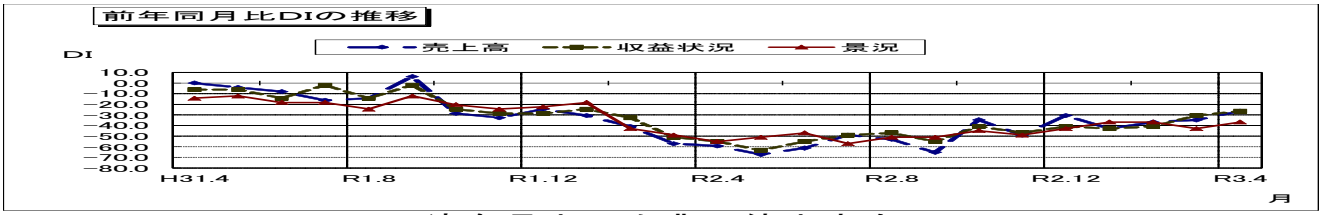
一方、高齢化や人材・後継者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として原材料高や燃料価格の値上がりも続いている。加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。また輸入木材の仕入価格上昇により国産材への需要が高まる反面、入手難による現場の遅れなども発生している。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比ＤＩの推移

	R2 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3 1月	2月	3月	**4月**	**前月比 増減**
景況	−55.1	−51.0	−46.9	−57.1	−51.0	−51.0	−44.9	−49.0	−42.9	−36.7	−36.7	−42.9	**−36.7**	6.2
売上高	−59.2	−67.3	−61.2	−49.0	−53.1	−65.3	−34.7	−49.0	−30.6	−42.9	−36.7	−34.7	**−26.5**	8.2
収益状況	−55.1	−63.3	−55.1	−49.0	−46.9	−55.1	−40.8	−46.9	−40.8	−42.9	−40.8	−30.6	**−26.5**	4.1
販売価格	−12.2	−2.0	−2.0	0.0	−6.1	−10.2	−8.2	−2.0	−6.1	0.0	−6.1	4.1	**6.1**	2.0
取引条件	−30.6	−26.5	−18.4	−22.4	−18.4	−12.2	−18.4	−16.3	−12.2	−14.3	−12.2	−14.3	**−16.3**	−2.0
資金繰り	−40.8	−40.8	−36.7	−30.6	−20.4	−24.5	−18.4	−24.5	−24.5	−26.5	−24.5	−18.4	**−26.5**	−8.1
設備操業度	−14.3	−14.3	−22.4	−16.3	−12.2	−18.4	−14.3	−16.3	−14.3	−16.3	−12.2	−12.2	**−10.2**	2.0
雇用人員	−18.4	−8.2	−10.2	−10.2	−10.2	−6.1	−6.1	−8.2	−8.2	−4.1	−8.2	−6.1	**0.0**	6.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



徳島県中小企業団体中央会

［景況関連の報告］

【製造業】

＜食 料 品＞

1．味　　噌・前年同月比、みその生産量は102.2%、出荷量は100.9%となった。前月比でみその生産量は129.5%、出荷量は122.1%と大きく増加した。年間ベースでみると生産量で△5%、出荷量で△4%となっており減少傾向は続いている。コロナの感染拡大が広がっており今後も外食需要の落ち込みが続くものと思われるが、一方でテイクアウトへのシフトも進んでおり外食産業の変化への対応が今後重要となってくるだろう。

2．漬　　物・漬物製造業者では一部の商品には前年と比べて売上が上昇傾向にあるが全体的には依然売上の回復が見られない。農家はほぼ前年と変わらない。コロナの影響で技能実習生の入国が止まっているので、今後労働力不足になる事業所が増加すると思われる。

＜繊維・同製品＞

3．縫　　製・繊維業界は、2020年は全般的に落ち込んでいたが、2021年予測では持ち直し傾向にあると判断している企業（大手）が多いが、中小企業にいたっては、油断できない状態である。原価面では、資材の値上げ要求が続いており、回避は難しいと判断している。設備面では、日本製の機械設備がほとんどなく、海外品の購入に頼らざるを得ない状況は相変わらずであるので、納期面・購入価額面での不利益が多い。生産については、従前と同じく次月以降分の製品備蓄を中心に展開している。

＜木材・木製品＞

4．製　　材・外材の輸入量が減った関係で製材品の品薄感が強まっており、国産材への引き合いが増加傾向にある。山側と協調しながら生産量を増やし対応したいところ。

5．製　　材・外材製品・原木輸入量が激減。一部商品品薄の状況である。

6．木　　材・原木丸太の入荷は少ないものの原木単価は高騰中。今後、丸太の入荷を期待したい。

7．木　　材・４月初めから外材関係（米松・米ツガ）が２度値上がり。これはアメリカ本土において、新型コロナ感染症に対する景気テコ入れ政策により、住宅建築活性化（これについては大工職人や建材職人の救済策含む）が図られ使用頻度が生産に追い付かず、輸出減となっているためである。それに伴い国内産の杉の便乗値上げが起こり始めている。

＜印　　刷＞

8. 印　　刷・毎年のことであるが３月の年度末が終わると、とたんに閑散期になる。コロナでイベント関連の印刷物がなくなり、官公庁の入札では激しい取り合いが続き、去年の価格も通用しなくなっている。今年４月も更に厳しいスタートの年度となった。過当競争となり体力を温存しなければいけないのに逆に消耗しあっているのが心配だ。また、５月は休みが多く売上も上がりにくく、益々厳しい状況が予想される。

9. 印　　刷・昨年の４月は、同月に出された第１回の緊急事態宣言のお陰でゴールデンウィーク用の折り込みチラシが全てキャンセルになり、またイベントはじめ多くの印刷物の進行がストップし散々な月だった。例年程ではないが非常に苦しい結果となった。コロナの影響で紙離れが予想より早く進み、コロナ終息後もコロナ以前の状態には戻らないと推測でき、これからどう対処していけばいいのか悩ましい問題である。

＜窯業・土石製品＞

10. 生　コ　ン・４月は昨年同月と比較して約２７％減少。目立った新規工事もなく昨年同時期より出荷量は減少。令和３年度の見通しは令和２年度出荷量の約20%前後減少するのではないかとみている。

11. 生　コ　ン・４月の出荷数量は、対前年同月比１６％減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、大型工事の終了とそれに代わる官での新規工事の減少による。今後の展開としては、県・国等の公共工事はある程度見込めるものの前年並みの数量確保は厳しいと思われる。

＜鉄鋼・金属＞

12. 鉄　　鋼・全体として、業況感に大きな変化は見られないものの、設備操業度などは回復基調にあり、生産動向も緩やかに持ち直している模様である県内景況は、一部に弱さが見られるものの、緩やかに持ち直しつつあると言われているが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、引き続き今後の景気動向が注視されるところである。

13. ステンレス・国内の状況としては、新型コロナウイルス感染症の再拡大を受けて先行きの不透明感が継続しているが、ワクチン接種の開始に伴い収束への期待感もある。海外についても、渡航規制緩和の目処は立たない状況が継続しているが、国よってはワクチン接種の効果も報告されており今後の新規感染者の減少に期待している。感染の再拡大の状況を確認しながら、防止策を講じつつ企業活動レベルを維持するように努めているが、コロナ禍以前と同様までの回復はまだ見通しが立たない状況にある。

＜一般機器＞

14. 機 械 金 属・景況感は、一部に持ち直しの動きも見られるが、再拡大の兆しが見られる新型コロナウィルスの影響もあり、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに、まだまだ、厳しい状況が見られ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感は拭えない状況である。また、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、依然として経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

＜卸 売 業＞

15. 食　糧　卸・感染状況により今後の売上を左右。

＜小 売 業＞

16. ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ・４月は売上前年対比101.6%(新店含むで113.0%)、客数100.4%(105.5%)だった。緊急事態宣言が発令された昨年の４月は、前年の売上が88.5%とメチャクチャ悪過ぎる月だった。数字だけを見ると今年の４月は好調ということになるが、２０１９年４月と比較すると95.9%だ。衣高食低で、衣料品店のほとんどが100%を超えているのに対し、肉屋さん・青果屋さん・食品スーパーが前年を割っている。徳島県でも４月に入りコロナ感染者が急激に増加しているが、何か関係があるのでだろうか。飲食業等と比較して我々の業種には営業時間短縮要請や、東京・大阪のように百貨店が休業しなくてはならない様な状況にはなっていないが、ワクチンにより一刻も早くコロナ禍が収束することを祈る。

17. 各種商品小売業・コロナ感染拡大が急増し、食品・日用品を買い求めるお客様は増えつつも、前年の売上高には届かない厳しい状況が続いている。

18. 畳 小 売 業・木材の入手難により、新築現場の着工が遅れている。長期化すると思われる。一般用はコロナを心配し少ない。営業用も低調。ワクチンがいきわたるのを待つしかないのか？

19. 電 気 機 器・昨年は給付金等の追風があったが、今年は反動か、商品全般的に動きが悪い。

＜商 店 街＞

20. 徳　島　市・今までの売場面積を狭くし、駐車場にする店舗があった。後継者がないことが原因だと思われる。コロナ禍で営業時間を短縮する飲食店が多い。

21. 徳　島　市・身近でもコロナが出るようになり、前以上に近づいて来ている感がある。ＳＯＧＯ跡もなかなか進まず厳しさは増す一方。

22. 阿　南　市・商店街の空店舗を活用したいという話が増えてきたように思う。

＜サービス業＞

23. 土木建築業・徳島河川国道事務所の４月の動向は、令和３年度技術者単価の変更により、１割弱の増額となった。業務量は先月と比較して大きな変化はない。工務課は新直轄工事の橋梁部発注は７割程度（金額比）終わり、土工部の発注（トンネルが主となる）。道路管理課は業務・工事等の発注が終わり、落ち着いた。交通対策課は課全体の工事・業務は少なく、次年度発注量も少ないため、落ち着いている。去年度との比較については、業務（工事発注に向けての、資料作成）は、ほとんど変わりないと思われる。働き方改革により、担当技術員-Ｒ３年度技術員の増員となっている。

24. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比24.0%の1,207台、中古車は-6.6%の464台、合計では13.7%の1,671台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比43.9%の1,174台、中古車6.8%の993台、合計は24.1%の2,167台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比19.3%の3,838台と増加。４月の自動車販売台数は、登録車の中古車販売が前年度比マイナスとなった以外は前年度よりプラスとなり、トータルでは19.3%増となった。新車販売が好調で、登録車は前年度比24%増、軽自動車は43.9%増となった。新車、中古車ともに軽自動車の販売が好調だったようだ。収益情報については、目安となる継続検査の台数でみると登録車は8.2%増、軽自動車は6.9%増ではあるが、収益状況が好転したとは言いがたい数字である。新型コロナの影響というよりは、自動車業界の従来からの懸案事項でもある。

25. 旅　行　業・現況は依然厳しい状態である。ＧＷにもかかわらず売上は皆無だ。一般企業が体力がなくなり、企業の存続が危うくなるかんじかと思う。

26. ビ ル 管 理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R2年・796円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が確実に現れてきている。更に、働き方改革への対応（同一労働同一賃金など）、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ホテル分野のメンテナンス業においては、従業員に対して雇用調整助成金等による休業補償でしのいでいるものの、現在なお収束のめどが立たない状況にあり、低収入による従業員の職場離れが発生している。今後、従業員の確保定着が大きな課題となることが予想される。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、４月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら、現下の新型感染症の感染状況を見ると、今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定され、これを念頭に事業活動に当たっているところだ。

＜建 設 業＞

27. 建　設　業・新型コロナウイルス感染症による発症事例が建設業関係でも出てきているが、建設工事での発症ではなく、子供のクラブ活動や家族間での感染である。令和３年度の県下の公共事業は、当初予算で対前年比約１０％の減となっている。

28. 板金工事業・コロナウイルス新規感染者数増加傾向にあり、また一昨年の非常事態宣言時の営業不足が現在になり影響している状況である。

29. 鉄骨・鉄筋工事業・４月も前月と変わりないが、操業度が若干低下してきている。

＜運 輸 業＞

30. 貨物運送業・昨年２月からの新型コロナの影響は依然として収まりが見えない中、４月は横ばいか若干の上昇、クラスターの発生で感染者数が急増。いつになれば終息するのか、先の見えない中で取り扱い業種によっては厳しい状況にある。軽油単価は前月比、若干の値上がりとなった。

31. 貨物運送業・前年コロナの影響で売上が大きく落ち込んでからなかなか持ち直しが見えない。宅配のみ巣ごもりの影響で相変わらず好調を維持。軽油価格は高止まりを続けており、厳しい状況がしばらく続きそうである。